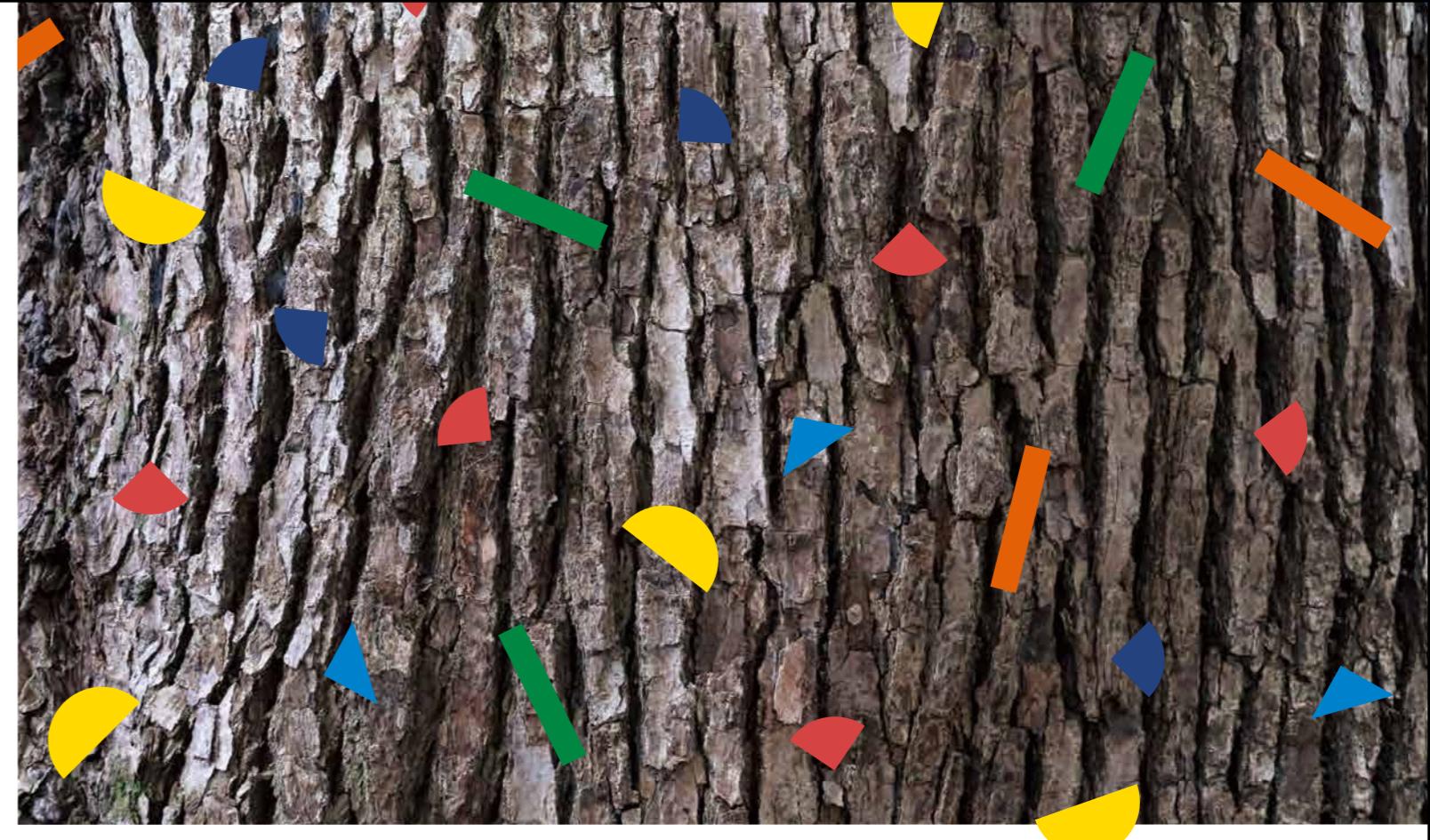


## SILSの歩み

2004	国際教養学部設置。 (早稲田大学で初めての英語による学位プログラムの学部の誕生。)
2008	文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」採択。 「英語がつなぐグローバルキャンパスへの取組(English connecting global campus)」実施。
2009	Global Network Center (GNC) 開設 11号館竣工。事務所、研究室移転。
2010	教育GP国際シンポジウム "International Development of Higher Education in the 21th Century" 開催。
2013	創設10周年。 文部科学省「大学の世界展開力強化事業～海外との戦略的高等教育連携支援～」(AIMSプログラム)に採択。 「AIMS7*多言語・多文化共生プログラム」開始。 *AIMS7= ASEAN International Mobility for Students Programme+7大学 (6つの協定大学と早稲田大学)
2014	創設10周年記念シンポジウム開催。
2016	コンセントレーション制度開始。
2017	Area studies and Plurilingual-Multicultural education programme (APM) 開始。 パリ政治学院と学士・修士5年プログラム (5BM Programme) に関する協定を締結。
2018	APM国際シンポジウム "International identities, plurilingualism and comparatism in higher education: an interdisciplinary perspective" 開催。
2019	創設15周年。 APM国際シンポジウム "Methods and roles of plurilingual and multicultural education" 開催。



**CELEBRATE  
15 YEARS OF SILS**

**15**  
WASEDA  
**SILS**  
15 YEARS OF BORDERLESS JOURNEYS



**池 島** これまで大学教育における国際的な人材育成のパイオニアとして、国際教養学部(SILS)は国内にある大学の国際系学部を牽引してきました。15年を経て、喜ばしいことにSILSは社会的にも高い評価をいただいております。今回は、これまでのSILSの歴史を振り返りながら、SILSが社会や、卒業生を含む学生に提供している付加価値について、かつて学部長を経験された森田先生とピニンガントン先生とともに意見を交わしたいと考えています。

**森 田** 2004年の開設当時、英語で授業を実施し、学位を授与していた大学は日本にはほとんどありませんでした。しかも、一学年600人という大規模で国際的な教養学部は、日本ではSILSのみ。もちろん国内には前例はなく、薄氷を踏む思いで学部を設立する際、①ほぼすべての授業の共通言語を英語とする。②在学生のうち3分の1を外国籍の学生にする。そして、③日本語を母語とする学生は在学中に1年間の海外留学を必修とする。これら3つの柱を打ち出し、歩み始めました。

**ピニンガントン** 設立当時からユニークな教育機関として注

目されていましたが、私個人として振り返ってみると、先行き不安な気持ちでいっぱいでした。たとえば、日本の大学で学びたいと望む海外の学生はいるのか、(日本人で)海外経験のない学生に、英語で授業を受け、ディスカッションできる高い英語力が備わっているのか、そもそもそのような学生が600人も集まるのか。しかしながら、蓋を開けてみると、日本人学生はもちろん、インターナショナル校出身の学生や海外経験の豊富な学生などいろいろなバックグラウンドの学生が集まり、当初の理想よりずっといいスタートを切ることができました。

**森 田** なかには英語が苦手な学生もいて…。「講義要項」や「履修ガイド」など、授業以外の部分もすべて英語だったことに驚き、事務所で学生が突然泣き出したという逸話も残っています。

**ピニンガントン** そんな学生のように英語が苦手でも、1年間の海外留学を経てネイティブと同等レベルの英語力を習得して卒業する学生がたくさんいます。



**ピニンガントン エイドリアン 教授**  
Adrian Pinnington

・前国際教養学部長 (2014.9.21～2018.9.20)

を母語とする学生(SP2)が増えたことです。かたや周りを見渡せば国際系学部を謳う大学が…。そこで差別化を含め、余裕と意欲のある学生に対し、第三外国語の習得と非英語圏の文化を肌で感じる機会を促したいと考えました。「AIMS 7 多言語・多文化共生プログラム」は、1つの国に複数の言語や文化が混在する東南アジア諸国と日本の架け橋となる人材育成を目的とした文部科学省の採択事業。私たちの目的とまさに合致したプロジェクトでした。

**ピニンガントン** 実はSILSの設立当時、カリキュラムや方針に対してまったく批判がなかったわけではありません。

「アメリカ偏重の教育や世界観を教えることになるのでは」という声は聞こえてきました。私たちも国際共通語として英語の必要性を疑う余地はありませんでしたが、それだけでは十分でないことは理解していました。ただ、10年目を過ぎるまでは、英語圏からの留学生が多く、他の言語で授業を行うところまで至らなかつたのです。実際、フランス、中国、スペインなど、非英語圏の国籍を持った教員や学生が籍を置きながら、それがまったく生かされていませんでした。留学生が多様化したことで、より国際色の強い学生を育む環境が整い始めたのです。APMプログラムは、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語の4つの言語に焦点を当て、その言語を使ってその国の文化、歴史、経済、政治などを学ぶシステムですが、そうした土壤から生まれた新しい発想です。

**池 島** 三分の一の留学生の多様化、これは、自由かつ国際色豊かな学びの場を提供するSILSが発展するキーワードになりそうですね。

**ピニンガントン** 宗教観、生活習慣、キャリア意識など、お互いが異質なモノを持つ留学生と日本人がミックスすることで化学反応が生まれます。

**森 田** もうひとつ大きく変わったのは「T字型」の学習が可能になったことです。これまでSILSの強みは理系文系問わず幅広く学べることでした。ただ、これだけだと「大学4年間で何を学んだか」という問いに頭を抱えてしまう学生が少なくなかった。つまり、「軸」がないので大学生活が宙ぶらりんになってしまっていたのです。コンセントレーション制度は、

## 変わらないものと変わるもの の融合、それが伝統を形成する

**森 田** 実際、入学時から在学中に学生の英語力がどの程度向上しているかという調査を見ても、SILSの在学生は他学部生に比べ英語力が向上しているのがわかっています。

**池 島** そうなんですね。入学時点において、私たちは必ずしも英語能力の秀でた学生のみを集めているわけではありません。学習意欲さえあれば4年間で優れた英語コミュニケーション力を習得できる。そういう学部にしようという使命は、今もこれからも変えたくないですね。



**池島 大策 教授**  
Taisaku Ikeshima

・国際教養学部長 (2018.9.21～現在に至る)

**ピニンガントン** それは、SP1の学生(日本語が母語の学生)のカリキュラムに、留学が必修に組み込まれているのが大きいですね。入学したと同時に学習目標が生まれますし、留学までに約1年半の準備期間がありますが、その間英語力の土台をしっかりと築くことで、留学先でもいきなりネイティブ学生に交じって授業に参加しても対応できる実力をスムーズにつけていくことができます。

**森 田** “留学”の陰に隠れて見遁してしまいかちなのは、SILS独自でのサポート体制。学習支援やキャリア支援などを提供するグローバルネットワークセンター(GNC)はもちろん、ライティング・センターでの英語・日本語文章の無料の個別指導といった、留学に至るまでのサポート制度がしっかりと用意されていることです。事実、このライティングセンターを利用することで英語の文章構成力が高まり、留学前の基礎的な英語力向上のための授業を免除される学生も、年々増えています。

**池 島** こうした学部開設当初からのサポート体制もそうですが、「AIMS 7 (2013年度)」、「コンセントレーション制度 (2016年度)」、「APMプログラム (2017年度)」といったさまざまなプログラムを採用してきました。これらは、どのような背景から導入に至ったのでしょうか。

**森 田** 設立10年目を迎えた頃、先の3本柱をほぼ完璧な形で運用できるようになっていました。とりわけ顕著だったのは、英語圏の大学へ留学する必要のない、いわゆる英語



**森田 典正 教授**  
Norimasa Morita

・元国際教養学部長 (2010.9.21～2014.9.20)  
・元早稲田大学理事(国際担当)

そんな学生の悩みを解決するために広さに加え、深さを追及した学習プログラムです。今は10以上のコンセントレーション(分野)が用意されていますが、今後も分野の数を増やして欲しいですし、そこから学問の面白さを知つてさらに大学院へと進学し、専門分野を探究してくれたら嬉しいですね。

**ピニンガントン** 大学院と言えば、私の教え子からこんな“ロッキー嘸”を聞きました。アルバイトしながら通つた苦学

生のマレーシア人の友人がSILSを卒業した後、ノースウェスタン大学のロースクールを経てオバマ前アメリカ大統領が所属していた法律事務所に就職したと。純ジャバの学生にとって留学で英語を武器にできるのがSILSの魅力のように、東南アジアの留学生から見ると海外で活躍する架け橋。それがSILSの役割でもあります。

**池 島** 3つの柱のような守るべき[軸=幹]をしっかりと育みつつ、社会情勢や学生のニーズに応じた“改革”をスピーディーに打ち出して新しい果実や花を咲かせていく。設立20周年までに“次の一手”を何らかの形で実現したいですね。



## Round Table Talk

日本にいながら異国の風を感じつつ高い国際感覚を身につけられる早稲田大学国際教養学部、通称SILS。設立15年の節目を迎えたが、学生たちの目にはどう映っているのか。アジアの途上国での支援活動を通じて親睦を深める1期生の吉川雄介さんと、在学生である12期生の島田颯さんと13期生の堀田さくらさんを招き、思い出話に花を咲かせながら、それぞれにSILSについて語ってもらった。

吉 川 これは誰もが頷くと思うけど、SILSを語る上で外せないのは海外留学でしょう。私は、2年生の3月に1年間の留学を終えてアメリカから帰国しましたが、そのあとがもう大変でした。設立したばかりですべて“初”だったので、単位認定が認められないのではないか、とドキドキしました。

堀 田 えっ!? 単位は取得できたんですか?

吉 川 できたばかりで単位認定に関する十分なスキームもなかったので、事務局の方に手伝ってもらしながら授業時間と内容を報告しないといけなくなつたんです。結果的に単位は認定されましたが、前例がない状況での苦労はありました。ふたりも留学はしているよね?



NPO法人Colorbath 代表理事  
株式会社カラーバス代表取締役

吉川 雄介 Yusuke Yoshikawa

1985年生。埼玉県武南高校から早稲田大学国際教養学部に2004年入学、2008年卒業。  
在学中に米国Portland State Universityへ1年間留学。文化人類学／社会学を専攻。  
卒業後は新卒でベネッセコーポレーションに入社。教員研修や講演、学校コンサルティングに従事。仕事に加え、途上国支援や地域創生事業に携わり、複数のNPO／NGO団体の立ち上げに関わる。  
現在は、ネパールやマラウイなどの途上国でのソーシャルビジネス、国際協力事業、日本の学校向け教育事業を展開している。  
世界経済フォーラム（ダボス会議）Global Shapersに選出。

島 田 はい。インドネシアでの国際NGOの海外インターンシップと、インドネシア大学への交換留学。トータルで2年間、休学しています。

堀 田 私は大学2年生の夏にデンマークに留学し、2019年3月から1年間大学を休学してフィリピンでの教育支援に参加しました。

吉 川 今の学生にとって大学を休学して留学することは当たり前になっているの?

島 田 そうかもしれません。私自身、4年間で卒業しなければいけないという意識はあまりなかったです。今はそういう学生が増えているんじゃないでしょうか。

吉 川 休学したゼミの友達がいたけれど、復学してからすごく肩身が狭そうな雰囲気を漂わせていてね。その姿がとても印象的だった。

島 田 2014年に官民協働の海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」がスタートしたことが大きいかもしれません。休学して留学する先輩も少なくなくなかつたですし、「ノーリスクでチャレンジできる。やりたいことがある学生にとっては、休学することも前向きなオプションなのかもしれません。



堀田 さくら

Sakura Hotta

立命館宇治高校出身。  
2016年4月入学。桜井啓子ゼミ所属。コペンハーゲン大学で1年間交換留学。トビタテ7期生。その後一年間休学をして、教育系NPOのインターンとしてフィリピンの現地で教育支援活動等に取り組む。卒業後はJICAに入構し国際協力に携わる予定。

吉 川 19号館。授業のスケジュールが詰まっていたので、予備校みたいに教室の外で待機して終わったら入室しての繰り返し。それに125周年で建造物の建て替えラッシュのタイミングで、キャンパス内を闊歩した記憶があまりないな。

堀 田 早稲田に愛着をもちにくうですね。

吉 川 そんなことはないよ。学生間の英語のレベルに差があったのに、先生方が分かりやすく英語で講義をしてくれたことは、今でも感謝と尊敬でいっぱい。あと、SILSは早稲田っぽくなかったけど。ミーハーな感じで早稲田グッズとか買い漁ったし愛校心は人一倍。まあ、早稲田に溶け込めてなくて早慶戦での応援歌は口パクだったけど(笑)

#### アジアの途上国での教育支援や社会貢献を通して繋がるSILS生たち

島 田 私たちの場合、就職活動を通して年齢の近いOB・OGと接する機会は稀にあります。吉川さんは大学を卒業されてから10年以上経ちますが、その間、SILSの後輩達との繋がりはあつたりされたんですか?

吉 川 先輩がいないので、縦の繋がりをどう築けばいいのか。それは卒業してからずっと悩んでいました。でも、ネパールやマラウイなどの途上国支援や国際協力事業に関わっていると、SILSの卒業生と一緒に仕事をする機会が思ったより少くない。大使館やJICA（独立行政法人国際協力機構）、それに現地で活動している人とかね。

## 変わらぬ“らしさ”と変わる“らしさ”

堀 田 今年の3月にフィリピンから帰国したとき、友達はもう卒業しているかなと思っていた。でも実際は、パーソナルジムを立ち上げたり、地方創生の活動に参加したりしていて。私たちの世代は4年での卒業に縛られず、ひとりひとりが学生生活をデザインしながら送っている印象が強いです。吉川さんの時代は休学のハードルが高かったんですか?

吉 川 傾奇者や破天荒な人といった目で見られていましたね。それに、就職に不利になるという空気感も当時はまだ残っていたかな。

#### SILS独自の文化が学生たちの自信や自己肯定感を育む

堀 田 いろいろ国の留学生がいるから、多様な環境で勉強できるのもSILSの売りのひとつですね。商学部と共にしている11号館の2階にあるラウンジは、いまやSILSの学生たちの溜まり場です。国際色がありにも豊か過ぎて。顔を出すだけでドキドキしちゃいます。

吉 川 羨ましい。私が入学したときは、メインの校舎やラウンジなんてなかったからね。

島 田 どこで授業を受けられていたんですか?

堀 田 外部の活動で繋がっていくのは“SILSらしい”ですね。

吉 川 そうだね。SILSには目的意識が高い人が集まってる。それは2004年の設立当初からまったく変わっていないと思う。これまで複数のNPOやNGO団体の立ち上げに関わってきたけど、そうした中で、後輩たちと出会えると何か妙にほっとする。

堀 田 私たちが在学生とOB・OGの橋渡し的な役割を担えるように、これからは私たちが先頭を切っていかないとダメですね。

島 田 Waseda Vision150では、令和5年度までに全学生が卒業するまでに1回は海外留学を経験する「全員留学」の実現を掲げています。「留学するなら……」と、国内の高校生たちがファーストオプションに“SILS”をあげてくれるようになるとかなり盛り上がるのかなと。勝手に想像して興奮しています。

吉 川 学生のニーズと改革がマッチングせずに苦しんでいる大学が多い中、SILSがアジアの若者から認知され始めているのは大学改革の成功例と言えると思います。これを土台にして次の15年をどうするか。個人的には世界の大学と競争し、誰も思いつかないような斬新なアイディアをSILS生が打ち出して欲しいと願っています。



島田 風 So Shimada

北海道札幌南高校出身、2015年4月入学。桜井啓子ゼミ所属。留学先はインドネシア大学。大学在学中に2年間休学をして、インドネシアで教育課題解決に取り組んだり、社会起業家の支援を行う海外インターンシップに参加。トビタテ10期生。卒業後はインドネシアのNGOに就職予定。

## 進んでいくうちに すべてが繋がる

今井 香緒里 IMAI Kaori

2004年4月入学  
桜井啓子ゼミ  
外務省 軍縮不拡散・科学部



SILSは世界中に協定校があり、様々な国の留学生を受入れているのみならず、留学先の選択肢も幅広いのが魅力です。私の留学先フランスでは、期待以上に多種多様な文化に触れることができ、中東・アフリカ・南米等、日本とは接点が少ない国々の友人もできました。

また、SILSには国際的な仕事を目指す方が多いと思いますが、ものづくりやサービスを通して他国と繋がる企業、日本のため多分野での貢献が求められる外務省、専門性を持ち国際人として活躍する国連職員、現地社会と深く関わり実務的な貢献ができるNGO等その内容は様々です。私自身は卒業と同時に自動車メーカーで勤務のためベルギーに渡り、キプロスの国連支部、スペインの人権研究所、ネパールの日本大使館等での勤務を経て、自分に合った仕事を探すために随分模索してきました。

SILSには多様なバックグラウンドを持つ教員や学生に囲まれ、探求心や好奇心を持って何でも直接体験することができる環境が用意されています。SILS時代に培った視野の広さと交友関係や経験が今に繋がっていると感じています。

## A Welcoming Mindset

本田 悠里子 HONDA Yuriko

2006年4月入学  
池田清彦ゼミ  
株式会社スタイリングライフホールディングス  
プラザスタイルカンパニー



「国際的な舞台で事がしたい。」「大学在学中に留学をしたい。」そんなざっくりとしたビジョンで入学した私は、実はそれまで心底どこかに"Belong"すると感じたことがなかった。幼少期を長年カンダで過ごした日々は、どこかしらに日本人という意識があり、日本の高校に通っていた頃も、同級生の感覚と違うと感じることが多かった。「私とは何か」、一言で言いたくても言えない感じていた。

そんな悩みがあったことさえも忘れさせてくれたのがSILS。国際色豊かな人が集まるだけではなく、どんな事もどんな考えも寛容に受け入れ、差別をしない空気がそこにはある。自分は自分であり、過去があるから今がある。むしろ2か国で育ち、ハイブリッドのような感覚を持つことができたのは、特権であり、自分の取り柄であることに気づく。

ニューヨークをベースに日本にお届けしたいポップで楽しい商品を探すバイヤーとして活動する今も、多くの刺激を受け、受け入れ、次なる夢への原動力へと変換させ、充実した毎日を送っている。

## 様々なバックグラウンドの 多様な人たちと日々を過ごす

ゾロタリヨワ クセニヤ Zolotareva Ksenia

2005年4月入学  
森田典正ゼミ  
Google Japan



私はロシア人ですが普通の日本人しかいない公立学校を卒業してSILSに入りました。言語面・文化面で様々な人たちに出会い大きなカルチャーショックを受けました。何かと均質になりがちな日本の学校と違い、日々驚愕・驚きの連続。英米圏に住んだこともないので英語でも苦労しました。社会人になり、このSILSでの経験がとても活かされています。10年間商社でロシア・CIS地域、中近東、中南米と海外営業をやった後に現職に転職しました。ここでもやはり様々なバックグラウンドの人たちと出会い、コミュニケーションを深めながら仕事を進めていく、そんな日々です。振り返ればまさにSILSで学んだ多様性を受け入れること、英語でコミュニケーションをとっていくこと、そしてその中から最良の結果を出していくことを実践する日々だと感じています。SILSは今の私の基盤になっています。

## Experiencing the "salad bowl" of values

佐々木 侑輔 SASAKI Yusuke

2007年4月入学  
東玲奈ゼミ  
サントリーホールディングス株式会社



A big congratulations to SILS on your 15th anniversary and thank you for allowing me to take part in this celebration. When looking back at my days in SILS, one of the most important things I learned was to appreciate and welcome the diversity of others. Having met many people with various backgrounds opened my mind to the differences of each person, and at the same time enriched my life with numerous values. Currently working in the PR sector, diversity is an essential component when considering the best communication approach to the public, and I'm grateful I learned this in SILS.

## 各期の声

## 多種多様な文化背景を持つ人たちと、 問題解決をしていく力

浅尾 周五 ASAOKA Shugo

2008年4月入学  
デロイトトーマツ コンサルティング合同会社



SILSに入ったばかりの頃、英語、日本語、中国語、韓国語が飛び交う教室で、正直気後れてしまったの覚えています。すごいところに来ちゃったな、と。

その後、なんとかSILSを卒業した私は、日系企業の海外進出をサポートしたい、とコンサルティングファームに入りました。アサインされたのは、クライアントはシンガポール人と日本人、交渉相手はインド人、上司・同僚はマレーシア人という、多種多様な文化背景を持つメンバーが協働するプロジェクトでした。英語、日本語、マレー語、中国語、ヒンディー語が飛び交う現場で思いました。SILSと変わらないな、と。今度は、気後れしませんでした。

今、SILSで楽しく過ごしている人も、苦労している人も、その経験は必ず自身の糧になると思います。それでも、自分だけでは乗り越えられない壁にぶつかったときは、いつも卒業生に頼ってもらえば嬉しいです。卒業生の皆様は、学生時代の想い出の一部を共有している仲間として、今後とも仲良くしてもらえば幸いです。15周年、おめでとうございます！

## SILSで得た繋がり

中山 明日加 NAKAYAMA Asuka

2010年4月入学  
池田清彦ゼミ  
PwCあらた有限責任監査法人



SILS創立15周年おめでとうございます。先輩後輩のご活躍によりSILSが存在感を高めていること、とても嬉しく思います。

よく社会人になるとコミュニティが広がらないと言われますが、在学中に築いたSILSの繋がりは卒業後も広がり続け、SILS生の活躍の場を広げるものと確信しています。

SILSでの生活は、サークルに所属せず、長期の固定クラスがなく、入学当初は理想の大学生活とはずれを感じていました。一方で、個性豊かなSILS生に囲まれていたからこそ日本特有の初対面での距離感や上下関係を意識せず、その場にいる人と協力関係を築き、目的を達成する力を身に付けられたと思います。特に、ゼミ生同士の交流が少なかったゼミで、後輩が声を上げ、旅行を企画してくれたことは長年日本で生活してきた私にとってとても印象的でした。

実際に私は、在学生や卒業生、またその友人と知り合い、一緒に仕事をする機会があります。今後もこの繋がりを大切にし、SILSとSILS生の発展に貢献していくならと思っています。

## 刺激にあふれたSILSでの4年間を経て、 今の自分がいます

小松 理恵 KOMATSU Rie

2009年4月入学  
内田勝一ゼミ  
独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO)



留学制度があることも知らずSILSに入学した私ですが、ここでの4年間は私の人生の転機となりました。言語と内容の両輪で知識・思考を深める学びが得られたこと、感性・バックグラウンドの違う多くの友人から毎日刺激を受けたこと、留学を含む海外生活を経験する機会を得て、世界の多様な価値観を体験できたことなど、入学前の私には想像もできなかつた世界を拓くことができました。在学中に海外と日本をつなぐ仕事がしたいという気持ちが芽生えたことが、政府機関という立場から、利益や効率にとらわれず長期的な視点で企業の海外展開を支援できる今のキャリア選択につながっています。

SILSで出会った恩師・友人との交流は卒業後も更に広がり、今も自分の生活と仕事において多くの刺激と豊かさを教えてくれています。

SILS創立15周年おめでとうございます。これからも世界中に広がる同窓生の活躍を楽しみにしています。

## Proud to be a Waseda SILS Graduate!

楊 大緯 YANG David (Ta-Wei)

2011年9月入学  
安吉逸季ゼミ  
UBS証券



One of the biggest stand outs of SILS is without doubt the international make-up of its student bodies. Being able to learn about Japanese culture in such an international environment allowed me to not only quickly adapt to it, but also look at it in a different angle and perspective. While at university, I also utilized the great corporate connections and network Waseda SILS has with companies to land myself a few internship opportunities, which definitely contributed to the success I have had thus far in my career. When introducing myself at different events and occasions, I have always been proud to say I am a Waseda SILS Graduate, and I will continue to be proud of it. Happy 15 years anniversary SILS!

## 各期の声

## How to identify as a truly global citizen

米田 メリニー ジョイ 幸  
YONEDA Melynne Joy Sachi

2012年9月入学  
ローグレアムゼミ  
株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ

My identity as a fifth-generation Japanese-American was something I struggled with when first joining SILS. I wasn't "hāfu" or "kikokushijo", and only being able to speak one language made me feel like an underdog. However, throughout my time at SILS I learned that no one can be perfectly compartmentalized. Being a true global citizen has nothing to do with the languages you speak or countries you've been to, but about being able to listen, understand, and empathize with people, no matter what background they are from. This global outlook has shaped who I am, and I am so proud of my identity.



## SILSでみつけた私のミッション

二宮 理沙子 NINOMIYA Risako

2013年9月入学  
株式会社Selan / 一般社団法人Lean In Tokyo



SILSでの一番の思い出は、人との出会いです。大切な友人や先輩、教授と出会えたことで、私の人生は大きく変わりました。11号館で出会った友人達は強くしなやかで、自分らしい人生を歩んでいます。転職、海外移住、婚約、大学院進学、昇進など…大切な友人達と出会えたことで、私の学生生活はポジティブなエネルギーで溢れています。大学3年次には、イエール大学に留学することができました。イエールでは今後のミッションに繋がる、教育学とジェンダー学について学びました。帰国後はGreg教授に大変お世話になり、充実した最終学年を過ごしました。自由度の高いSILSだからこそ、サークルを立ち上げたり、ゼミに入る代わりに半年間休学したり、心からワクワクする活動に注力できました。卒業から2年経った今、私は新たなスタートを切ろうとしています。SILSでみつけたミッション、「全ての女子学生が、自信を持って一步踏み出すことができる環境づくり」を達成するために、秋からスタンフォード教育大院の修士課程に進学します。SILSでみつけた私がやりたいこと、そして素晴らしい出会いを、これからも大切にしていきたいと思います。

## SILS生活で培った、自主性と行動力

氏本 燐 UJIMOTO Ryo

2014年4月入学  
榎口清秀ゼミ  
三井物産株式会社



## 希望、成長、そして躍進の原動力

中井川 蘭 NAKAIGAWA Ran

2015年4月入学  
上杉勇司ゼミ  
三井物産株式会社



SILSで印象的だったのは、授業や留学先などの幅広い選択肢に加え、学生の柔軟なキャリア形成を尊重する懐の深さです。国内外の幅広いフィールドで働きたいと考えていた私の場合は、スウェーデン留学期間を活かし、授業の合間に縫って数多くの現地社員を訪問しました。今思えばかなりの挑戦でしたが、時には飛び込みでインターンシップも行い、実際の職場に足を運ぶ中でキャリアイメージが固まっていました。様々な選択をする過程で将来やキャリアについて考える機会に恵まれ、あっという間でしたのが濃密な4年間を送ることが出来たと思います。卒業後は総合商社に就職、現在は南米地域での自動車事業に携わっていますが、インターン先でも自動車を担当しており当時の経験が現在も役立っています。また学生時代を通じて培った自主性と行動力は、社会人として働く上でも大切にしています。そして、SILSには個性的で尊敬する友人も多く、各業界で活躍する彼らから卒業後も刺激を受けています。

SILSといえばやはり英語での授業ですが、そこから本当に学んだのは、広い視野で考えることだと思います。そして何かの目標を持った場合には、それに向けて一つ一つ緻密に計画を立て、準備に努力を重ねることです。私は入学前から政治の報道に興味があり、ジャーナリストを目指すべく留学先のワシントンDCでは現地のテレビ局でインターンをしました。上院・下院で取材し、FBIコミー元長官の解任を巡る公聴会等貴重な取材もしました。取材を通して、DC在住の日本人、経済界の方々にもお話を伺い、今まで報道という視点でしか考えていないかったのが、国際的なビジネスを志すようになりました。卒業後は総合商社で働いています。社会人としてまだまだ辛い時はたくさんありますが、SILSで4年間、興味ある勉学に全て英語で打ち込んだこと、留学先での挑戦は大きな自信になっており、自分のキャリアをどう形成していくか、楽しみでもあります。SILSでの4年間に得られた尊敬する友人や、留学先で過ごした時間は、社会人となった今でも私にとって大切な財産です。

## 各期の声

## Student's Voice

Q. SILSを一言で表すなら  
How would you describe SILS in one word?

- 異世界
- 大学内の別の国
- Small world in Tokyo
- Possibilities
- Encouraging
- Experience
- BROAD in every way

Q. SILSの好きなところ  
What do you like about SILS?

- 違うこと、に関して寛容
- 様々な言語が飛び交っていて、何でも受け入れられる気風があるところ。
- 国内にいながら海外留学をしたような感覚が味わえるところ。
- How almost everyone cares about a particular world problem and studies hard to contribute to its solutions. Almost everyone is truly dedicated to learn about international relations and attempts to understand where they should stand in the global world.
- diverse, unique, open-minded
- I prefer the global environment and have the chance to explore the diverse fields.

Q. SILSの凄いところ  
What do you think is great about SILS?

- welcome everyone to try different things until you finally find out what your real goal is.
- Variety of classes
- It sometimes makes me feel I am not in Japan.
- You can exchange ideas with people whose backgrounds differ from yours.

Q. あなたが勉強してみたいこと

- Combine the things we learnt and have a deeper understanding on what we are interested in.
- I would describe the Liberal Arts curriculum at SILS as a place that gives you the freedom to explore your interests and passions.

Q. あなたが思うSILSにおけるリベラルアーツとは  
How would you describe the "Liberal Arts" curriculum at SILS?

- 自分のやりたいことが明確でなくとも、"興味"を大切にして授業が選べて、自分のやりたいことを見つけていくことだと思います。
- A small adventure of what I am interested in and an academic way of finding who I want to be as I get older.
- Well you can do just about anything you want, with any way you want. It's literally "liberal"
- 自分の軸を、自分の力で見つけていくプロセス。

## 在学生が見るSILS

# SILS in numbers 2004—2019

## 入学者(正規生)国籍新旧比較

(日本以外の国籍比率)

2004年 9か国 65人

12.7%

2019年 24か国 206人

32.9%

## 受入学生(SP3)国籍新旧比較

270人

(30か国)

2004年

359人

(33か国)

2019年

## 受け入れ人数の多い5か国(日本除く)

- アメリカ合衆国
- 中国
- 英国
- フランス
- カナダ

2004—2019

## 科目数新旧比較

Cluster	Course Category	2004年度	2019年度
Life, Environment, Matter and Information	Introductory Courses	4	12
	Intermediate Courses	5	16
	Advanced Courses	1	12
	Subtotal	10	40
Philosophy, Religion and History	Introductory Courses	5	5
	Intermediate Courses	0	6
	Advanced Courses	7	17
	Subtotal	12	28
Economy and Business	Introductory Courses	3	5
	Intermediate Courses	4	14
	Advanced Courses	6	17*
	Subtotal	13	36
Governance, Peace, Human Rights, and International Relations	Introductory Courses	4	9
	Intermediate Courses	5	20
	Advanced Courses	8	20
	Subtotal	17	49
Communication	Introductory Courses	3	2
	Intermediate Courses	1	9
	Advanced Courses	1	8
	Subtotal	5	19
Expression	Introductory Courses	2	8
	Intermediate Courses	2	16
	Advanced Courses	9	18
	Subtotal	13	42
Culture, Mind and Body, Community	Introductory Courses	2	13
	Intermediate Courses	4	16
	Advanced Courses	4	15
	Subtotal	10	44
Total		80	258

\*寄付講座1含む

2004年：80科目

2019年：258科目

## 2019年度に履修者数の多かった科目

- Photography
- Introduction to Popular Culture
- American Politics
- Introduction to Marketing
- Introduction to Business
- Gender Studies
- Brain and Cognition
- Anime:Art and Industry
- Media History
- International Role of Japanese Business
- Introduction to Cross-cultural and International Education
- Dinosaurs: Discovery and Research
- Video Game Studies
- Principles of Advertising
- Introduction to Media Studies
- Introduction to Psychology: Quantitative Approach
- Introduction to Psychology: Qualitative Approach
- Vertebrate Paleontology
- Introduction to Language Studies
- Selected Topics in Cultural Studies
- Russia: From Lenin to Putin and Medvedev
- Introduction to Macroeconomics
- Computerized Society
- United States Politics and Foreign Policy
- Introduction to Literature
- Theories of Religious Studies
- Japan's Foreign Policy
- Introduction to Environmental Science
- Basics of Life Science

2004—2019